

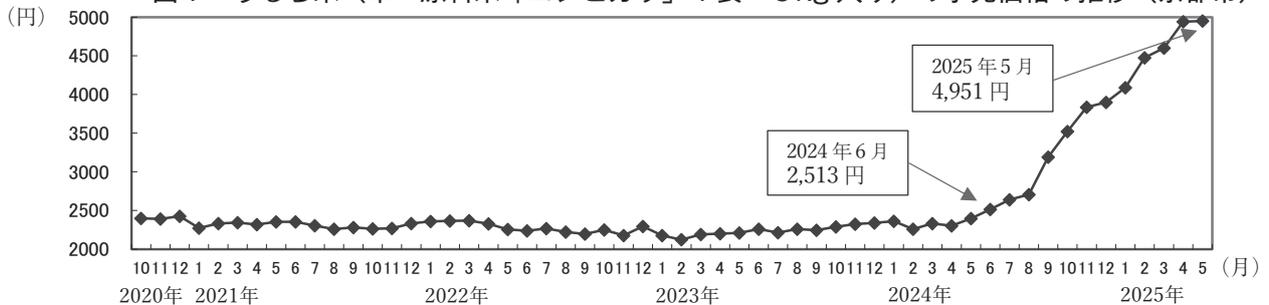
米価について ～米価格の高騰に注目が集まっています～

1970年以降、半世紀近く実施されてきた米の生産調整（減反政策）のもとで、水稲作付面積が減少してきたことや米農家の高齢化、後継者不足による水稲作付農家が減少するなど、米供給力の減少に加えて、異常気象による不作やインバウンド需要の回復・増加など、複合的な要因が重なり、2024年夏、米の需給バランスが崩れ、店舗での品薄や価格上昇が生じています。

米の価格推移

京都市の米の小売価格は、近年、5kgあたり2千円台前半で安定して推移していましたが、2024年6月に2,500円を超える（2,513円）と、同年8月以降急騰し、2025年5月は4,951円となり、前年同期2,396円と比較して2倍以上にまで上昇しました。（図1）

図1 うるち米（単一原料米「コシヒカリ」1袋・5kg入り）の小売価格の推移（京都市）



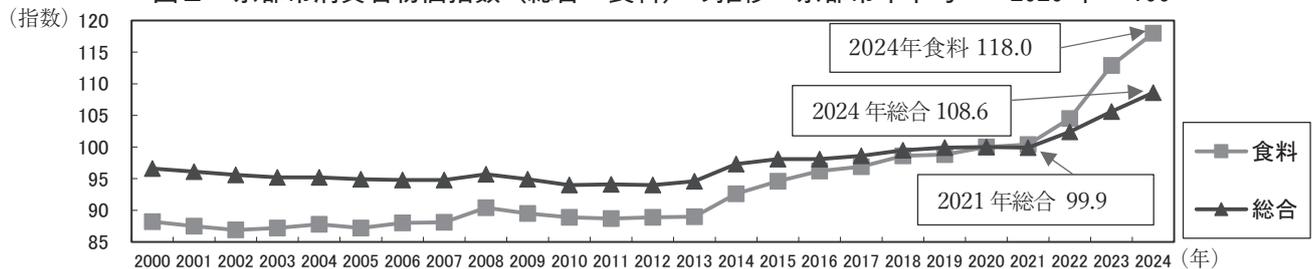
資料：小売物価統計調査（総務省）

消費者物価指数の推移

物価の動き全体ではどうでしょうか。消費者物価指数（総合：京都市）の変動を時系列的にみると、2014年は消費税率改定（5→8%）の影響で、前年比2.8%上昇し、以降は微増で推移してきました。2020年1月に国内で初めての新型コロナウイルス感染症の患者が確認されてからは、累次の対策を講じ、2021年には京都府を区域とした緊急事態措置の期間などが197日を数え、自粛期間の長期化による需要の落ち込みもあり、同年の総合指数が99.9と前年から0.1%下落しました。一転、2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻でエネルギーや原材料価格が高騰、円安やコロナの5類移行などの影響も受けて、2024年は108.6となりました。

京都市消費者物価指数「食料」は、同「総合」と同様の傾向ですが、より大きく反応しており、2024年は118.0となりました。（図2）

図2 京都市消費者物価指数（総合・食料）の推移<京都市年平均> 2020年=100



資料：消費者物価指数（総務省）

～米のこれから～

米の価格が1年で2倍を超えるのは急騰と言えます。2025年6月時点の状況の中では、国において政府備蓄米を随意契約により2,000円前後で放出、更には、入札備蓄米を買い戻し、随意契約で再放出することも検討されています。また、米の安定的な供給を実現するため、「米の安定供給等実現関係閣僚会議」が開催されました。これからも、米の価格動向から目が離せません。